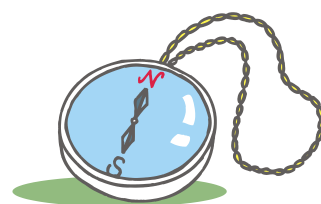


羅 針 盤

第 17 号

令和8年10月5日（月）



◆ バトンを繋ぐ

先月の9月18日（金）に今年度の柴中フェスタ文化発表の部を終えて、いよいよ来週末の10月16日（金）には柴中フェスタスポーツ発表の部が開催されます。スポーツ発表の部で行われる陸上競技は、基本的には個人戦ではありますが、一般的には、切磋琢磨する競技仲間をはじめとする、日ごろから支えてくれている家族や、あるいは、コーチ、トレーナー、そして、大観衆の声援などを含めると、応援してくれる人々とのつながりを感じる場面がたくさん存在するスポーツであると言えるはずです。そして、その中でも、最もつながりを深く感じ取ることができる種目であるのが、リレー競技でなはいかと思います。仲間を信じてバトンを受け取り、そして、そのバトンを次の走者へと託すという、この思いのこもったバトンには、道具以上の意味があるような気がします。学校生活での「バトンを受け継ぐ」ということ、それは単に役割を引き継ぐといった意味合いだけをもっているものではありません。そこには、卒業生も含め先輩たちが大切にしてきた工夫や努力、仲間とともに積み重ねてきた思いが込められているはずです。そして、その思いをしっかりと受け止めることこそが、真の意味での「受け継ぐ」ことなのではないかと思います。一方で「つなぐ」とは、受け取ったものをそのまま渡すのではなく、自分なりの工夫や新しい視点を加えたうえで、仲間と力を合わせながら、後輩に安心して任せられるより良い形に整えて、次に渡していくべきであると思います。こうした「受け継ぐ」「つなぐ」の積み重ねが、学校の伝統や文化を創りあげていっているわけです。そしてそれは、保護者や地域の多くの人たちの温かい見守りや励ましがあってこそです。日ごろは、何気ない声かけや応援の言葉であったとしても、見守り続けてくれている人たちからたくさんの元気や勇気をもらっているはずです。生徒の皆さんの一人ひとりが、地域の構成員の一員であることを忘れてはいけないはずです。これから先も、学校生活を通じて、一人ひとりが受け取ってきたバトンを大切にしながら、未来へと繋いでいてもらいたいと思います。



◆ 「一瞬を、一生に」

今年度の柴中フェスタ2026のスローガンは、「一瞬を、一生に」です。文化発表の部もスポーツ発表の部も、一つひとつの出来事や一人ひとりの出番といったものは、ほんの一瞬の出来事であり、瞬（またた）く間に終わってしまう場面の積み重ねです。それでも、その一つひとつの出来事に一喜一憂し、場面ごとの一人ひとりの頑張りに大きな声援を送り、仲間との繋がりを感じ取ることのできた瞬間は、一生の宝物であり、一人ひとりの記憶に深く刻みこまれた出来事であったはずです。十分に持てる力を発揮できた人もいれば、自分が望んでいた結果とは違った人もいるかとは思いますが、それでも、学校行事の取り組みの中から多くのことを学び取り、次なる成長を求めることができるのであれば、「一瞬」の出来事は、「一生」の価値あるものへと昇華されていくのではないのでしょうか。学校行事の一つひとつの「一瞬が、一生に」なることを願っています。

